

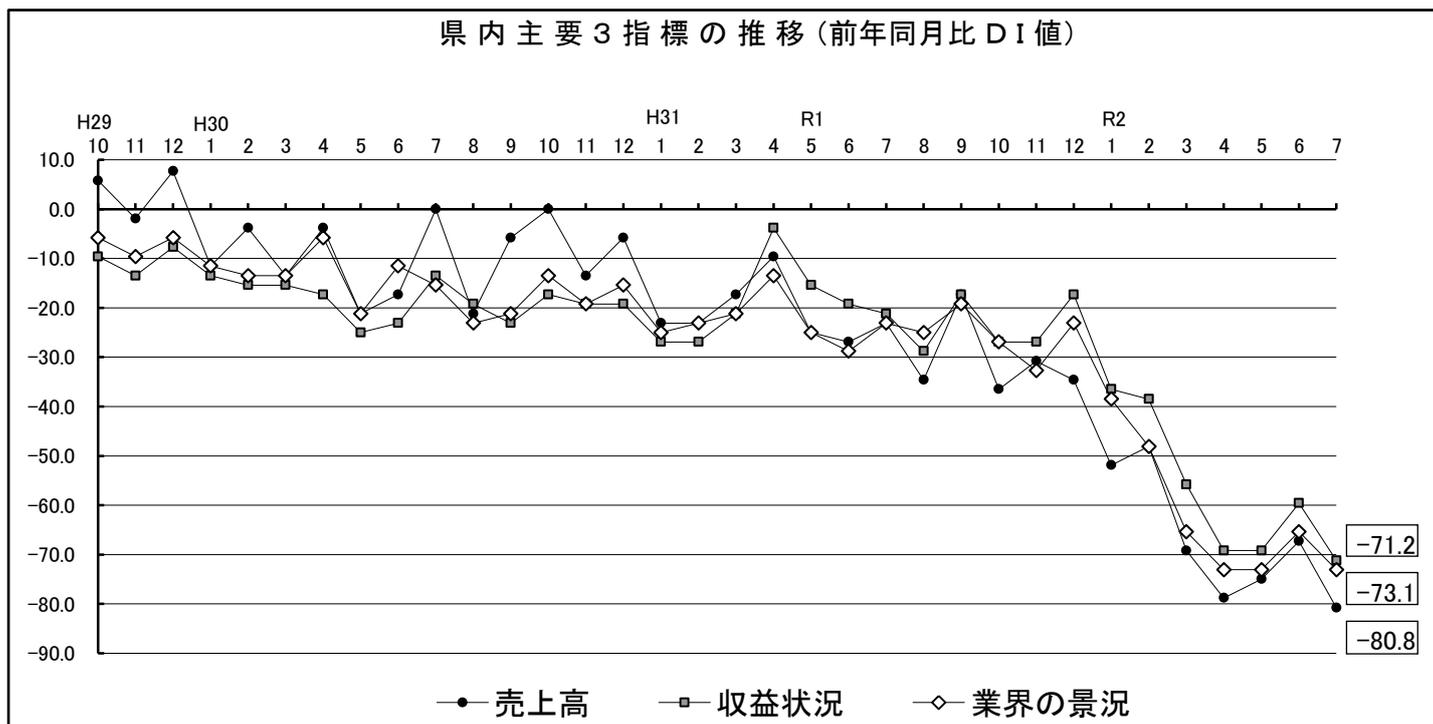
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和2年7月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員5名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標全てが前月より悪化。コロナショック後、最も厳しいマイナス状況となった。
- 新型コロナウイルス感染拡大の第2波と思われる影響が出はじめている。
- 回復基調の期待が持てた前月から一転し大きなマイナスとなり、影響の長期化が懸念される。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-80.8	-13.5	-62.2	3.5
収益状況	-71.2	-11.6	-63.2	1.4
業界の景況	-73.1	-7.7	-67.1	2.1

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より13.5ポイント下降し、-80.8ポイントとなった。全国においては、前月より3.5ポイント上昇し、-62.2ポイントとなった。

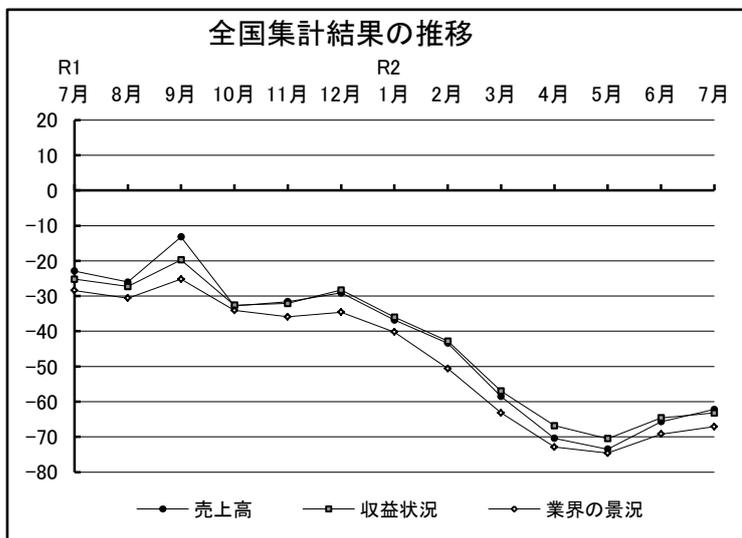
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より11.6ポイント下降し、-71.2ポイントとなった。全国においては、前月より1.4ポイント上昇し、-63.2ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より7.7ポイント下降し、-73.1ポイントとなった。全国においては、前月より2.1ポイント上昇し、-67.1ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

7月の前年同月比DI値は、前月の前年同月比DI値と比べ、9指標中4指標が上昇し、4指標が下降した。主要3指標は「売上高」が13.5ポイント下降し-80.8ポイント、「収益状況」が11.6ポイント下降し-71.2ポイント、「業界の景況」が7.7ポイント下降し-73.1ポイントとなった。

「売上高」では、前月より製造業7業種中2業種が悪化、8.0ポイント下降、非製造業6業種中3業種が悪化、18.5ポイント下降、全体で13.5ポイント下げた。また「収益状況」は、製造業2業種が悪化、8.0ポイント下降、非製造業3業種が悪化、14.8ポイントの下降、全体で11.6ポイント下げた。5・6月の主要3指標の数値の回復は一時的なものであり、7月は平成23年4月（東日本大震災後）以来のマイナスを示した本年4月を更に下回る厳しいマイナス状態となった。

緊急事態宣言解除を受け徐々に経済活動が再開し、回復基調になりつつあるとの声が聴かれた前月から一転、厳しい下降となった。各業種で新型コロナウイルス感染拡大の第2波と思われる影響が出はじめており、取引先の経営悪化を受け連鎖的な影響を懸念する声が聴かれた。更に長梅雨による天候不順も経済活動にマイナスの影響を及ぼしており、設備操業度の低下も顕著である。長期化する新型コロナの影響により、先行きの見通しが全く立たない状態が続いており、資金繰りに対する心配に加えて雇用への影響も懸念される。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-75.0	25.0	0.0	-25.0	-100.0	-100.0	-50.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	-100.0	-50.0	-50.0	-75.0	-100.0	-100.0	-75.0	-75.0	-100.0
木材・木製品	-75.0	50.0	0.0	0.0	-75.0	-25.0	-50.0	-25.0	-75.0
印刷	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	-75.0	-25.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	-75.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	-100.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0	-50.0	-75.0	-25.0	-100.0
一般機器	-100.0	-50.0	0.0	0.0	-100.0	-75.0	-75.0	0.0	-100.0
製造業	-88.0	-16.0	-8.0	-16.0	-76.0	-60.0	-68.0	-24.0	-80.0
卸売業	-100.0	0.0	0.0	-33.3	-100.0	-33.3		0.0	-100.0
小売業	-71.4	-28.6	14.3	-14.3	-57.1	-57.1		0.0	-57.1
サービス業	-100.0		-33.3	-33.3	-100.0	-66.7		-33.3	-83.3
建設業	-20.0		0.0	0.0	-20.0	-20.0		0.0	-20.0
運輸業	-100.0		0.0	0.0	-75.0	-50.0		0.0	-100.0
その他	-50.0		-50.0	0.0	-50.0	0.0		0.0	-50.0
非製造業	-74.1	-20.0	-7.4	-14.8	-66.7	-44.4		-7.4	-66.7
全体	-80.8	-17.1	-7.7	-15.4	-71.2	-51.9	-68.0	-15.4	-73.1

図表2 【指標別DI値の推移】

	元年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月 比
売上高	-23.1	-34.6	-17.3	-36.5	-30.8	-34.6	-51.9	-48.1	-69.2	-78.8	-75.0	-67.3	-80.8	-13.5
在庫数量	-20.0	-14.3	-8.6	-20.0	-14.3	-8.6	-5.7	-14.3	-5.7	-22.9	-5.7	-22.9	-17.1	5.8
販売価格	5.8	0.0	3.8	3.8	3.8	3.8	-3.8	-3.8	-11.5	-7.7	-15.4	-13.5	-7.7	5.8
取引条件	-5.8	-9.6	-9.6	-9.6	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-15.4	-23.1	-26.9	-19.2	-15.4	3.8
収益状況	-21.2	-28.8	-17.3	-26.9	-26.9	-17.3	-36.5	-38.5	-55.8	-69.2	-69.2	-59.6	-71.2	-11.6
資金繰り	-11.5	-15.4	-11.5	-19.2	-13.5	-13.5	-19.2	-17.3	-38.5	-53.8	-55.8	-51.9	-51.9	0.0
設備操業度	-4.0	-20.0	-20.0	-16.0	-8.0	-12.0	-24.0	-24.0	-28.0	-64.0	-72.0	-56.0	-68.0	-12.0
雇用人員	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-5.8	-5.8	-1.9	-3.8	-11.5	-11.5	-19.2	-15.4	3.8
業界の景況	-23.1	-25.0	-19.2	-26.9	-32.7	-23.1	-38.5	-48.1	-65.4	-73.1	-73.1	-65.4	-73.1	-7.7

特記事項

情報連絡員報告（令和2年7月分）

所属組合	特記事項
和洋菓子製造業	一般の町内で売上は減少幅も少なくなってきたが、観光地・駅中等はまだまだ厳しい。全国菓子業界として、売上の大きく減少している店には、全国の4～5ヶ所のデパートなどでイベントを開催して応援している。
あん類製造業	個人事業主は、卸し先も個人事業者が多く、何日も仕事がゼロという会社もあるようだ。GoToキャンペーンでの人の動きに期待する会社も多いようだ。
酒類製造業	最悪な状況である。
縫製業	アパレル関係の受注品は50%以下になり、医療用防護服マスク等の新型コロナウイルス感染予防品が多くなり、何とか仕事が続いているが、いつまでこの仕事があるのか先は不透明である。
染色整理業	組合員に聞き取り調査を実施した結果、組合員が1社倒産した。新型コロナウイルス発生に伴い、大きな売上・収益の減少となっている。対策は、一時休業・操業時間の短縮、従業員の解雇・一時休暇、国を始め行政支援策の導入を行っている。見通しは、具体的な目標達成困難な状況である。
綱・綱・レース・繊維粗製品製造業	新型コロナウイルス第二波の影響がさらに業況悪化に拍車をかけている模様。取引先の先行きも不透明な所が多く、工場の稼働率はとても不安定である。組合員各社でも助成金を活用しながら、雇用の維持に努めているが、夏以降の見通しに不安を感じている。秋以降の消費動向もあまり期待できず、事業活動もしばらくは最小限の動きしか取れない企業が多いと感じる。
家具・建具製造業	6月とほぼ変わりはないが、景況の悪化度合いはより強まっている。
建具製造業	引き続き新型コロナウイルスによる影響が大きく各組合員ともに苦境に陥っている。8月前半は、学校関連の改修工事や盆休み前の駆け込み工事などで多少工場も動いている様子だが、先が見通せない状況に変わりはない。
印刷業	組合員企業の取り扱い品目によって受注減少幅は異なるものの、総体的に売上減少の影響は大きい。また県北地域は観光地のため大きな打撃となり経営的に苦境に立たされている。
石灰製造業	鉄鋼向けは、相変わらず減産傾向であるため出荷減。肥料関係も、天候と新型コロナウイルス等の影響で減少した。建材関係は、ほぼ前年並みに推移。全体では、鉄鋼向けの減少が大きく影響し減少している。
砕石製造業	第1四半期の出荷量（4月～6月）は、去年同期比で7.8%増加しており堅調である。
金属製品製造業	新型コロナウイルスの影響による自動車メーカーからの受注状況は、各社毎に生産調整中のところ、回復してきたところ、変わらないところと様々である。家電関係では、冷蔵庫の受注はほぼ変わらないが、エアコン関連の受注が長梅雨の為減少。
金属製品製造業	自動車部品関連・機械設備関連・プレス金型関連いずれも新型コロナウイルス、売上低下、人件費増加、人手不足により低下した。
一般機械器具製造業	とても悪い状況であった。3月～6月に比べると少し上向いてきた感じがある。ただし、先行き不透明感はある状況にある。
一般機械器具製造業	売上高の減少により収益状況も悪化が続くが、一部の企業につき回復の兆しがある。資金繰り状況懸念は継続中である。新型コロナウイルスに関し今後の対応に注視。今後の政府等の支援策に期待する。
一般機械器具製造業	先月に引き続き、新型コロナウイルスの影響により取引先からの受注が減少。団地内製造業の7割の企業の売上高が前年対比減少。今後さらに悪化が予想される。
一般機械器具製造業	相変わらず、改善が見込めない状況である。
各種商品卸売業	新型コロナウイルスによる売上減少や収益悪化とする企業が多く見られる。組合会館を魅力ある施設とするため、本年度より2年計画で卸商業団地機能向上支援事業により「防災機能を備えたりノベーション計画策定」に取り組む。
食肉小売業	コロナ禍で、家庭需要が増加して豚肉の輸入量が増え、低価格の物が売れている。国内の豚の出荷も、PED・豚コレラの影響で少なく、高騰している為、仕入金額が上がっている状況である。
中古自動車小売業	新車販売減による下取車の発生減少により、中古車の流通価格が上昇し、コロナ禍前の相場まで回復した。しかし、供給減によるもので、小売状況は回復していない。

各種商品小売業	7月期も厳しい月となった。物販業はすべての業種で前年を割り苦しい。経済環境が一段と厳しさを増した状況である。飲食店は、「宮の食ベトクチケット」等の販売でやや戻している。
各種商品小売業	依然として厳しい状況が続いているが、全体の客数は前年比9割程度まで戻った。衣料等の購買意欲がなかなか向上しない中、いかにして以前とは違う形で売っていくかを考えなければならない。
花・植木小売業	長引く梅雨、局地的な大雨に見舞われるなど不安定な気候により入荷量は前年比10～15%ほど減少し、相場は大幅な単価高となり仕入額の増加となった。加えてこの時期は花の痛みが早く、店頭での動きは鈍く売上は上がらない。新型コロナウイルスの影響もあり、依然として厳しい状況が続いている。
理容業	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの店舗で来客者数は減少している。消費者の不安を少しでも取り除き、引き続きガイドラインに基づいた営業をして行くことを組合員に徹底していくことで、景気回復に努めたい。
自動車整備業	売上減少が続いており、新型コロナウイルス感染による影響を徐々に受けていると感じる。
旅館・ホテル	新型コロナウイルス感染拡大により、宿泊は壊滅的な状態。宴会は100%ダウン。飲食店は50%ダウン。宿泊は未だ前年対比60～70%である。
ビルメンテナンス業	倉庫内作業請負やビルメンテナンス等の売上高が若干減少する中で、外注費が増える傾向にあり、収益が悪化した。
給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響で、数ヶ月間は昨年度より大幅に減少となったが、今月は少し回復した。雇用の確保、事業の継続をするためのキャッシュフローは、国・県の制度融資でなんとかしているが、新型コロナウイルスが終息せず、このまま続けば収益・資金も危うい。
内装工事業	新型コロナウイルス感染拡大の影響により購買意欲が低下しており、ひいては売り上げにも影響が出ている。
一般貨物自動車運送業	先月同様、新型コロナウイルスの影響で卸先（工場やセンター）がストップしてしまい、運行が出来ない便ができてしまっている。今月は他の便（ルート）を走ってもらっているが、なかなか難しい状況。資金繰りにも影響が出てきている。景気が悪い中で休日も多く、給料が上がらず苦労している。
貨物軽自動車運送業	県内において、様々な業種のお客様の稼働率が下がっている状況の中、依頼も減少している。このような中でも、新規案件で宅配業務なども数社から提示されている。厳しい状況に変わりはないが、引き続き努力していく。
一般乗用旅客自動車運送業	自粛解除に伴い、7月前半はお客様が戻る様子が見られた。中・後半から新型コロナウイルス感染の相次ぐクラスター発生があり、陽性者拡大となり自粛時より厳しい状況となっている。今後、この状況が長引く事になると自営継続が難しい状態である。
大谷石採石業	新型コロナウイルスの影響と思われるが、建築資材としての需要が減っている。